

確かな力をつける一年生の作文指導

— 年間指導計画から実践まで —

目 次	
I テーマ設定理由	1
II 研究の全体構造図	3
III 研究内容	5
1 作文年間指導計画	5
一年生の作文年間指導計画	6
日記指導と短作文指導の年間計画	14
2 確かな力をつける指導	15
IV 指導の実際	16
1 単元名 「よく おもいだして かこう」	16
2 単元設定の理由	16
3 単元の目標	17
4 指導内容	17
5 単元構成	17
6 教材について	17
7 指導計画	19
8 指導の展開	19
9 本時の展開	21
10 実践例2 「共同作文」	21
11 児童作文	23
12 児童実態の変容	26
V まとめと今後の課題	27
<参考文献>	27

宜野湾市立普天間第二小学校

知 念 春 美

確かな力をつける一年生の作文指導

— 年間計画から実践まで —

宜野湾市立普天間第二小学校教諭 知念 春美

I 研究テーマの設定理由

現代は、まさに「多様化の時代」である。さまざまな物質が巷に氾濫し、情報があふれ、それともなって、人間の価値感や生き方が大きく変貌しつつある。

このような現代社会を背景にして、平成元年度の小学校指導要領の改訂は行われた。今回の改訂で国語科に強く求められたのは、「これからの社会に主体的に対応できるように、目的や意図に応じて適切に表現する能力と相手の立場や考えを的確に理解する能力の育成」である。

特に文章による表現力を高めることに重点が置かれている。作文を主とする指導時間が、第1学年から第4学年までは年間105単位時間、第5学年から第6学年までは年間70単位時間程度配当するようになり、表現領域は今までよりもさらに大きな比重を占めることになった。「確かな文章表現力の必要性が今日ほど叫ばれたことはなく、21世紀に向かう国語教育の最大の課題である。」とも言われている。

しかしながら、私自身のこれまでの作文指導を振り返ってみると、作文指導の重要性を認めながらも納得のいく実践ができなかった。その理由として、作文の領域は他の領域に比べて指導が難しいという苦手意識が常にあったことや指導の手だてが十分でなかったことがあげられる。また、「書くこと」になると児童の個人差が大きいこと、書くのに時間がかかること、書いたことを取り上げるとさらに多くの時間がかかることなどで、ついつい敬遠しがちであった。そのため、児童には確かな書く力をつけることが不十分であったように思う。

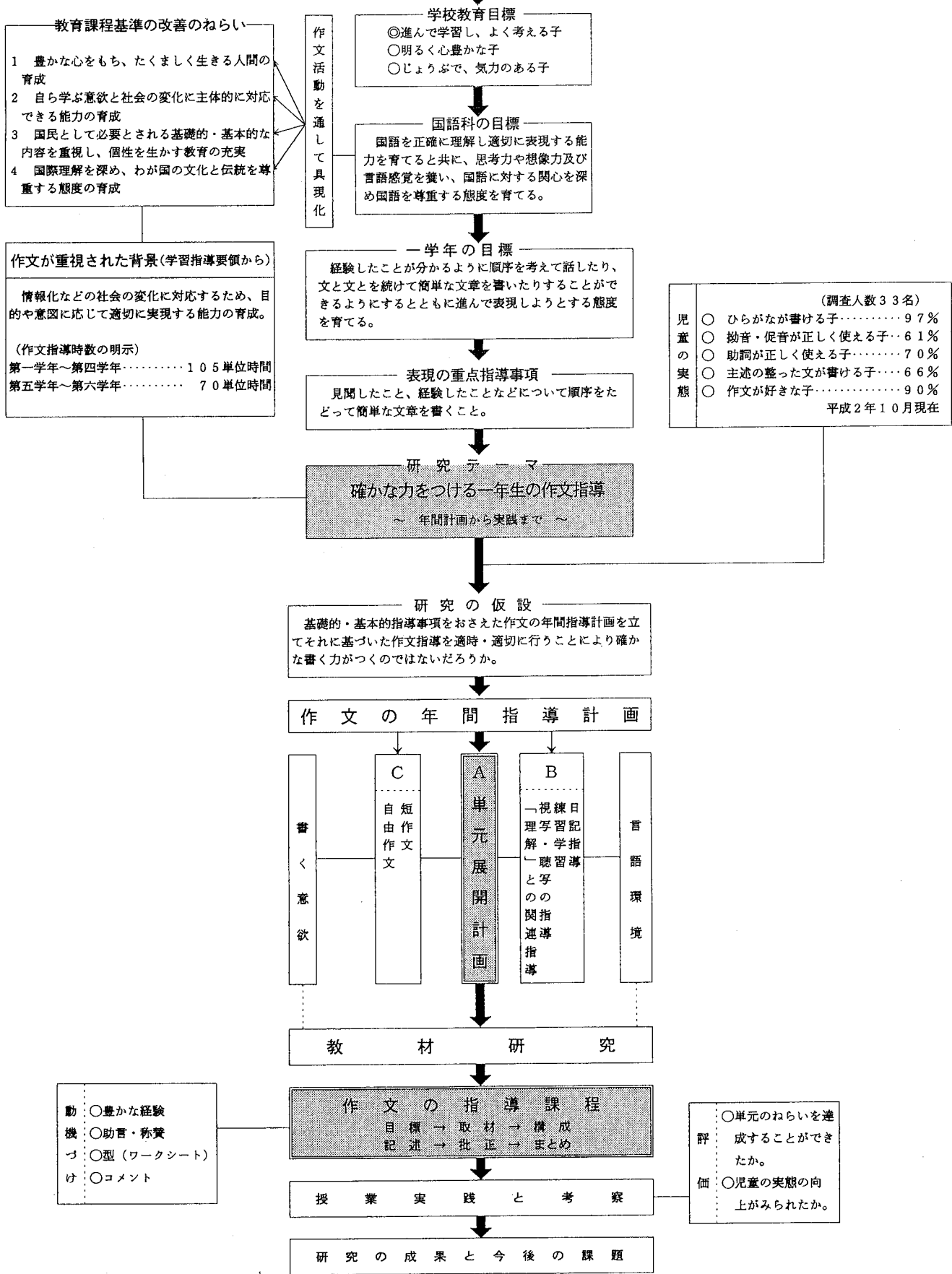
小学校の作文教育で特に入門期「一年生」の指導は大事だと言われている。入門期は、言うまでもなく、作文を書く喜び、楽しさに気づかせる時期である。初期の段階での指導が十分なされないと、児童に学年相応の書く力をつけることができず、その結果、作文ぎらいな児童を増やすことにもなりかねない。したがって、この時期こそきめ細かな作文指導が望まれる。

そこで、研究の視点として次の四点をおいた。

1. 一年生の作文の年間指導計画をたて、どういう力を、いつ、どのように指導するのかを明確にする。
2. 書く意欲を持たせるための指導を工夫する。
3. 練習学習を多く取り入れることにより言語事項の定着を図る。
4. 指導目標を明確にし、その観点から評価をする。

以上の4点に留意して指導することにより、一人ひとりの児童に確かな書く力をつけることができるのではないかと考え、本テーマを設定した。

II 研究の全体構造図



III 研究内容

1 作文年間指導計画

(1) 年間指導計画作成にあたって

学習指導要領の改訂に伴い、国語科では言語の教育としての立場を一層重視して、適切な表現力、正確な理解力に加えて思考力、想像力を育てることをねらいとしている。特に表現の領域においては、話すことや書くことの活動を十分に行い、適切に表現する能力を育てるため内容が改められている。その内容は音声言語及び文字言語による表現力を高めることに重点が置かれ、音声言語による表現力も以前より重視されている。

それで、平成4年度からの新学習指導要領の完全実施を目前に、移行がスムーズにできるように、特別に作文の年間指導計画を立てる必要がある。そうすることにより、どんな技能を、いつ、どのように指導するかが明確になり作文指導の改善・充実ができる。なお、作文の年間指導計画の作成にあたっては次の観点にたって作成した。

- ① 現行の予備時数や生活科への移行で削減した時数を作文の時間にあてるようにする。
- ② 1年生は生活科との関連を図りながら、作文の時間にゆとりをもたせたり、特設単元を設けたりして105時間に近づけるようにする。
- ③ 教科書の作文単元学習（Aコース）、理解単元での表現学習や言語事項に関することを中心に取り扱い作文の基礎的・基本的な事柄を身につける練習学習（Bコース）、さらに単元作文や練習学習で習得した文章表現力を生かして自由にのびのびと書かせる自由作文（Cコース）などを取り入れることにより理解領域、言語事項の指導内容との関連を図るようにする。

(2) 三本立て年間指導計画・・・「興水実氏提唱を参考」

A・・・教科書の作文単元コース（配当時間55%）

文章を書く上に必要な作文技能を確実に身につけさせることをねらうコースである。教科書の教材文や補助教材を使って文章の書き方を理解し、それをもとにして実作によって文章を書く力を高める。

B・・・練習学習コース（配当時間33%）

言語事項に関することを中心に取り扱い、作文の基礎的・基本的な事柄を身につけさせることをねらうコースである。文章を書くのに必要な技能を取り上げ、それを練習によって習得させる。「理解」単元での関連指導もこれに含める。

C・・・自由作文コース（配当時間12%）

単元作文や練習学習などで習得した文章表現力を駆使して、自由にのびのびと書かせることをねらうコースである。できるだけ自由に書かせることにより個性的・創造的な表現能力を伸ばし、書く意欲や態度を養う。

以上の三つのコースを立てて年間指導計画を作成する。そして、それぞれのコースの特色を生かし関連し合って指導を進めることにより文章表現力の向上をめざしたい。

一年生の作文年間指導計画

(▲は作文の時間)

(1)

月	単元・教材	コース 文種	時数	○目標 ●指導事項	要領と の関連	主な学 習活動	言語に 関わる 指導	新出 漢字	備 考
4	あかるいおひさま 理2 表3 言3	B	2	○ひらがなの母音を中心に清音を正しく読んだり書いたりする。 ●ひらがな(清音)発音と表記 ●一字語、二字語、三字語の言葉	言ア、イ	○「くしくい」「あさ」について、正しく読み、筆順に注意して書く。 ○文字あそび、ことばあそびをする。	○「あ、い、う、え、お」のつく言葉あつめ ○(あさ、いし、うす、え、おの) き、て、め そら、もり、へや きつね、ひよこ、たねき ○くし、こい、あさ	く、し、こ い、あ、さ	○平仮名の読みの調査(二週までに) ●指導を要する児童の把握 ○五十音文字カード(3cm)用意 ○平仮名の読み書き
5	さるがくる 理3 言2 表3	B	2	○主述の整った文と句点に注意し、清音、濁音、半濁音の違いや敬音の特徴が分かって読み書きできるようにする。	表キ 言ウ、オ	○主述の整った文を作る。 ○言葉あそびをして、語いを増やす。 ○言葉の描写 ●句点の正しい打ち方	○清音、濁音、半濁音、敬音 ○鼻濁音(が、ご、ぎ) ○(さる、ぼん、まど、まど) ○助詞(…が、…を、…に) ○さる、おちる、うける、きのみ	る、お、ち、う、け、き、の、み、ひ、び、び、ふ、ぶ、ふ、は、は、た、は、く、へ、に、ま、も、え、ら、や、せ、か、む、ゆ、わ	○文型カードによる文作り ○しりとりにあそび ○視写
	おかあさんへ 理4 言2 表2	C 手紙文	1 ▲	○うちの一人への感謝の気持ちを1～2文程度で表すことができるようにする。	表オ、キ	○「おかあさん ありがとう」の字をなぞる。ほかの文を1～2文つけ加える。			○ワークシート ○書けない児童は視写
	はなのみち 理4 言2 表2	B	2	○主語、述語、修飾語の整った文に気付き、句読点や促音に注意して視写することができるようにする。 ●促音の正しい表記 ●句読点の正しい打ち方	表キ 言イ(7) ウ(7)(1) オ(7)	○促音の読み方と書き表し方を理解し、正しく読んだり書いたりする。 ○言葉遊びを通して、主語、述語修飾語や助詞の使い方を意識して、整った文を作る。	○くまさん、りずさん、はなまき、ねっこ、しまった、まっくら、しっぱい、 が を ました。	ん、り、す、な、る、る、す、む、て、そ、と、を、れ、わ、つ、ね	○視写 ○文作り
	おはようって いいな 言2 理2 表2	B	3	○長音、五十音を正しく読み、視写するとともに、はっきりに読めることができるようにする。 ●長音の言葉の正しい表記 ●五十音表を縦や横に読み、まとめや評価をする。	表キ 言ア イ(7)	○「おはよう」のあいさつの外に、どんなあいさつがあるか話し合い、読んだり書いたりする。 ○長音の読み方と書き表し方を知る。 ○長音を含む言葉を集め、読んだり書いたりする。 ○本文をよく見て正しく視写する。	○長音の読み書き おはよう、おかあさん おばあさん、おにいさん おじいさん、ふうせん ゆうひ、おねえさん おとうさん、おとうと いもうと、にちようび さようなら	よ、	○視写 ○聴写 ○言葉あつめ
	えばなし 表1 言1	B	1	○絵を見て、順序にそってまとまった話ができるようにする。 ○五十音の構成を知って、平仮名を姿勢、口形に気を付けて読んだり、筆順に気を付けて正しく書いたりできるようにする。 ●五十音、濁音、半濁音の配列を知り、正しく読んだり、書いたりする。	表イ、オ 言ア、イ イ(7)	○4枚のさし絵を見て、順序どおりに話を作り、みんなの前で発表しあり。 ○五十音、濁音、半濁音を正しく読んだり、書いたりする。 ○五十音、濁音、半濁音を聴写する。	○五十音の読み書き 濁音…だ行、ざ行 だ行、ば行 半濁音…ぱ行	濁音 半濁音	○視写 ○聴写

コース A: 教科書の作文単元を主とするコース・B: 練習学習を主とするコース・C: 自由作文を主とするコース

(▲)は作文の時間

月	単元・教材	コース 文種	時数	目標 ● 指導事項	要領と の関連	主 な 学 習 活 動	言語に関わる指導	新出漢字	備 考
9	おむすびころりん 理10 表2	B 手紙文	2 ▲	● そのときの様子をよく思い出させてくわしく書けるようにさせる。 ● 三文以上かけるようにさせる。 ○ 会話を視写したり、読んでおもしろかったことを、作文に書いたことのできるようにする。 ○ 漢字や言葉の使い方に注意しながら、正しく読んで書きたいこと、話の部分に「」を付けることのできるようにさせる。 ● 会話の中で、漢字の読み方や意味を類推させる。 ● 漢字の正しい読み書き	表ウ カ 言イ(ウ) エ(ウ)	1. どんなことを手紙に書くか話し合い、書くことを決める。 ○ おじいさんに手紙を書く。 ○ 友達の手紙を聞いて、よく書いているところを話し合う。 2. 新出漢字や慣用語、複合語を正しく書いたり使ったりすることが出来る。	おまつり、おみこし いさましく、いっしょに 「わっしょい、わっしょい。」 ぱっと うれしく	ある日 山、土 木、一 目、口	具体的な着眼点の示唆を与える。 (個別指導) ○ 作品コーナーに掲示 ○ 50字くらいあります目の用紙(3文程度)の用意 ○ 書ける子は、2~3枚は、書くよう励ます。 ○ 新出漢字の練習と言葉の使い方の練習
	えとかんじ かずとかんじ 表4 言4	B 短文	4	◎ 漢字の持つ性質に気付き、漢字を正しく読んだり書いたりすることのできるようにする。 ○ 漢字を正しく使うことのできるようにする。 ● 漢字を正しい字形で書くことのできるようにさせる。 ● 文の中で漢字を適切に使うことのできるようにさせる。	表オ 言イ(オ) イ(オ)	1. 漢字の成り立ちを知る。 ○ P77の文章を視写する。 2. 習った漢字を使って、言葉集めをする。言葉集めを生かして、短文作りをする。 3. 「かずとかんじ」を読み、漢数字の読み書きと、いろいろな物の読み方を知る。 ○ 「ものかぞえかた」を視写する。 4. 漢字を正しく使って、文章、書く。 ○ 書いた文章を批評する。	漢数字とよみかた 助数詞 まい びき、ひき、びき ひとり、ふたり、三	月、火、水、木、金、土、日、月、川、一、四、七、十、三、六、九、八、人	視写 言葉集め 短文作り ○ 今までに学習した漢字を2字以上は使うようにしたい。 ○ 例を示して、抵抗をなくさせる。
10	じどり車くらべ 理7 表3 言1	B 説明文	3 ▲	○ 文章の内容を考えながら、はっきりとした発音で音読したり、視写したりできるようにする。 ○ 必要な語句の意味や使い方に、関心をもち、また、片仮名を正しく読み書きできるようにする。 ● 書き出しの一字下げや、句読点を正しく書かせる。 ● 「です、ます」や「は、や、を、へ、に」の助詞を正しく使わせる。 ● 「それで」を使って文をつなげさせる。 ● 片仮名五十音図の読み方を身に付けさせる。	表キ 言イ(キ) エ(キ) オ(キ)	1. 消防自動車はどんな仕事をするか考えて話し合う。 ○ 消防自動車の働きや仕事についてよくわかるように説明する。 2. 全文を読み、説明の内容と説明の仕方について確認する。 ○ 自分が好きな乗り物について説明の文を書く。	○ どんな…いますか ○ 接続語 (そのため、それで) ○ 文末(です、ます) ○ 助詞 ○ はりす→ホース	じどり車 大きい、火じ バス トラック タイヤ、ホ	○ 視写 ○ ワークシート ○ 片仮名で書く言葉集め ○ 濁音、促音は、平仮名の書き方と同じであることをおさえる。

(▲)は作文の時間

月	単元・教材	コース 文種	時数	目標 ● 指導事項	要領と 関連	主な学習活動	言語に関わる指導	新出漢字	備考	
10	お話を聞いて	C 感想文	2 ▲	○思ったこと、感じたことを作文に書く。 ● 感想文の書き方を指導する。	表オ	1. 絵本の読み聞かせを聞く。 2. 上段に題名と絵を書く。 3. 思ったこと、感じたことを作文に書く。			ワーキングシート ○ 初歩的な感想文の書き方をわからせる。	
	くじらぐも 理9 表3 言1	B 手紙文	2 ▲	○ 「…も」の使い方に注意して視写・臨写し、対比する表現の仕方が理解できるようにする。 ○ 片仮名を正しく読んだり書いたりできるようにする。とらえ、その使い方の意味を正しくとらえ、その使用方を理解できるようにする。	表キ 言ア(イ) イ(イ) エ(イ)	1. くじらぐもを読んでもおもしろかったところを話し合う。 2. くじらぐもに手紙を書く。 3. 書いた手紙を智読する。 4. 「くじら④」「くじら⑤」「くじら⑥」の使い方の違いに気付く。 5. 新出漢字の読み書き、使用方の練習をする。 6. 平仮名書きの言葉の読み方と比べながら、片仮名書きの言葉を読む。 7. ていねいに書く。	子ども 空、右、上 女の子、ン、ブ、グ、 ジ、セ、チ、ム、ハ、 ル、ブ、シ、ボ	○ 正しい視写		
11	しのひろば 表6	A 詩	6 ▲	◎ 経験したこと、身の回りのこと、興味を持ったことの中から書く事柄を選び、その事柄の様子を詩的に表現できるところが適切に表現できるようにする。 ○ 書きたいことが適切に表現できるように、言葉の使い方を考え、工夫することができるようにする。 ○ 書いたあと読み返し、漢字や語句の間違いを直すことができるようにする。 ● 家庭生活や、学校生活の中で、くわしく見たり、思ったりしたことを取材させる。 ● したこと、見たこと、思ったことなどを詳しく書かせる。 ● 擬声語、擬態語を使い、表現の工夫させる。	表ウ、オ 言エ(ウ) エ(イ)	1. 学習のねらいを知る。 2. 「うさぎ」を読み、文章の構成を理解する。 3. 全文視写をする。 4. 「ゆげ」「いちよりのは」を読み、適切な表現の仕方を知る。 5. 題材を決めて、おもしろいな、ふしぎだななどと思ったことを短い文章で書く。 6. 「山」という字を読んで、詩的表現の仕方を理解し、書く意欲をもつ。 7. 詩的表現で書く。 8. 書いたあと読み返し間違いを直す。	ときどき、ゆげ、力もち もち上げます、まん中、まわり、ごうれい …よりだ カチャカチャ	文、力もち ひる休み まん中、字 もち上げる ノ、カ	○ 視写 ○ 力もち…擬人法 ○ カチャカチャ…擬声語 ○ 行かえのし方 ○ 「」の使い方 ○ 比喩表現 ○ 常体にも慣れさせる。	
	えんそく	B 共同作文	3 ▲	○ 経験したことを少しずつ想起することができる。 ○ 想起したことを文に書くことができる。	表ウ エ カ	1. 楽しかった遠足について話し合う。 2. 話し合うことによって思い出し、それを作文に書くというパターンをはじめ、なか、おわりに分けて書く。 3. 自分の書いた作文を読み返し、間違いを直す。			児童が書いている間、教師は個別指導をする。 ○ 作文評価は記号で行う。 ○ 書きあげた作文は作文コーナーに掲示	

(▲)は作文の時間

月	単元・教材	コース 文種	時数	目標 ● 指導事項	要領と の関連	主な学 習活 動	言語に 関わる 指導	新出 漢字	備 考
	きのうのこと 表10 作文	A 生活文	11 ▲	◎昨日したことの中からいちばんの順 きたいことを選び、したことがよ うに書くことができるようにする。 ○主述の照応に気を付けると同じに、 文の中で漢字や句読点、かぎ「」 を正しく使うことができるように する。 ○書いた事柄を読み返し、漢字や句 読点やかぎの誤りを直すことができ るようにする。 ●主述の照応と五W	表ウ エ カ 言イ(エ) ウ(イ) ウ(ウ) オ(ウ)	1. したことのなかから書く事柄を見つ ける。 ○「きのうのこと」を思い出して一 言発表させる。 ○周りの人に知らせたい事柄を選ば せる。 ○選んだ事柄を簡単に短冊カードに 書かせる。 2. 書こうとする事柄を簡単に話し合 う。 ○いちばん知らせたい事柄を絵に書 かせる。 ○絵を3つの文で説明させ、いちば ん書きたい事柄がはつきりしてい るか、話し合わせる。 3. 思い出しの方法や詳しく書く方法 を考える。 ○教材文を読んで「したこと」に のマークをつけ、よい表現のし方 を知る。 ○会話文の表現効果を知る。 4. 昨日のことをよく思い出して様子 がよくわかる作文を書く。 5. 自分の作文を読み返し、書き直し やまとめをする。	したこと ○とほしました。 ○もりました。 ○きりました。 ○わりました。 ○つくりました。	学校、先生 先、左 正しい ロ、ケ	○「ぼくは—しました。」 の基本をしっかき ○記述中の教師の働き かけをしっかきやる。 ○個別指導 ○作文のマーク ① したこと ② みたこと ③ きいたこと ④ しゃべったこと ⑤ おもったこと ⑥ じょうず ○短作文りの練習をし て詳しく表現する方 法を知らせる。 ○「」を使った短作文 り
12	したことおも たこと 表4	C	4 ▲	◎学芸会のことを思い出してじゅん じよよく書くことができる。	表エ オ カ	1. 学芸会のことを思い出して、したこ とや思ったことについて話し合 う。 2. 教材文を読んで何をどう書くか について調べる。 3. 作文を書く順序を決める。 4. 取材表をもとに作文を書く。 5. 作文を読み返して、正しく書き直 す。	○どきどき、わくわくなど、 気持ちを表わす言葉		教材文 学図「がくしゅうはっ びょうかい」
	たぬきの糸車 理10 表2	B 感想文	2 ▲	○人物の様子のよく分かるところを 複写し、かわいらしい様子の書き 表し方に気付くことができるよ うにする。 ○読み方や意味の分からない文字、 語句に注意して文章を読み取るこ とができるようにする。 ●自分が思ったことを文章に表す。	表キ 言エ(ウ)	○昔話を読んでおもしろかったこと を絵と文でかく。 ●昔話や民話を読んで、おもしろ かったところを絵にかく。 ●下に感想文を書く。	きこりのふりふ、きこり おかみさん、わな いたなど、土間、いたの間 糸をつむぐ、ふと気がつく おもわずふきだしそりになる ちらりと見える、手つき キーカラカラ、キークルクル くりくりした、くるりくるり びよん、びよん	糸車、村 白い、音 下りる 見える 土間	用紙の準備 視写 動作化 短作文り

(17)

(▲)は作文の時間

月	単元・教材	コース 文種	時数	目標	指導事項	要領と の関連	主な学 習活動	言語に 関わる 指導	新出漢 字	備 考
1	花いっぱい なあれ 理10 表4 言2	B 手紙文	2 ▲	○様子を表す言葉に注意して、読んだり書いたりすることができるようにする。 ○曜日や日付けの呼び方を理解し、毎日の生活に役立てることができるようにする。 ●様子や気持ちを表す言葉を、表現活動に生かさせる。	○「じぶんでは」「じぶんで」の含まれる文を視写し、肯定、否定の表現に気付くことができるようにする。 ○不思議に思ったこと、おどろいたことを見付けて、作文に書くことができるようにする。 ○主述の照応に気付くことができるようにする。	表イ 言エ(7) エ(7) オ(7)	1.「花いっぱいになあれ」の中から、自分の好きな場面を選び、視写する。 2.コンペのお手紙を書く。 3.曜日や日付けの呼び方を知る。 4.2月のカレンダーを作る。	○動きや様子を表す言葉 (あわふ、ぼっかり、チャップン、たんすく、ぐんぐん、など) ○コンの幼さやかかわいらしさ 驚きを表す言葉 (はあっと、へええ、にこにこ、ワーワー、はら、すこいや...)	花、町、りよ う手、生まれ る、赤い、雨、 まい、日、金、 ろ、月、水、 木、日 ワ	視写 ●自分が好きなところを抜き書きする
2	どうぶつ ちゃん 理9 表5 言1	B 説明文	5 ▲	○経験したこと、身近な事柄の中で、いちばん書きたいことを選んだり、長く詳しく書くことができるようにする。 ○書こうとすると、事柄をよく思い出しながら、様子がよく分かるように、したこと、見たこと、聞いたこと、などをありのままに書くことができるようにする。 ○書いた文章を読み返す習慣を付けることにも、漢字や表記などのまじりがいを直すことができるようにする。 ●自分の書きたい題材を見付けさせる ●「だれが」「いつ」「どこで」「何を」「したか」、出来事の順序がわかるように書かせる。 ●書く材料を順序に従って並べることができ、よりよりにさせる。 ●話題をはっきりさせ、書くことができ、よりよりにさせる。 ●会話、様子、色、形、音なども	○「じぶんでは」「じぶんで」の含まれる文を視写し、肯定、否定の表現に気付くことができるようにする。 ○不思議に思ったこと、おどろいたことを見付けて、作文に書くことができるようにする。 ○主述の照応に気付くことができるようにする。	表キ 言エ(7) オ(7)	1.初めて分かったこと、驚いたこと、調べてみたいことなど、感想をワーシートに書く。 2.物の図鑑や絵本を読んで、初めて分かったことを書く。 3.片仮名と平仮名の字形の似ている文字や、長音について学習する。 4.片仮名の促音、拗音について知る。	○主述の照応 (一の一は一です。) ○指示語、接続語 (そして、それで、その、それ、これ、でも、そうして) ○文法 (肯定、否定) ●じぶんで—ます。 ●じぶんでは—ません。 ○文体 (常体と敬体) ○片仮名 (ライオン、カンガルー)	耳、王さま 一年、立つ 小さい、音 まええ足、音 オ、ガ、リ、ヘ ソ、ウ、テ ニ、ユ、エ シ、ビ	○視写 ○ワークシート ○図鑑や絵本 片仮名の拗音、促音
	いっぱい たいこと 表10 作文	A	10 ▲	○経験したこと、身近な事柄の中で、いちばん書きたいことを選んだり、長く詳しく書くことができるようにする。 ○書こうとすると、事柄をよく思い出しながら、様子がよく分かるように、したこと、見たこと、聞いたこと、などをありのままに書くことができるようにする。 ○書いた文章を読み返す習慣を付けることにも、漢字や表記などのまじりがいを直すことができるようにする。 ●自分の書きたい題材を見付けさせる ●「だれが」「いつ」「どこで」「何を」「したか」、出来事の順序がわかるように書かせる。 ●書く材料を順序に従って並べることができ、よりよりにさせる。 ●話題をはっきりさせ、書くことができ、よりよりにさせる。 ●会話、様子、色、形、音なども	○「じぶんでは」「じぶんで」の含まれる文を視写し、肯定、否定の表現に気付くことができるようにする。 ○不思議に思ったこと、おどろいたことを見付けて、作文に書くことができるようにする。 ○主述の照応に気付くことができるようにする。	表ウ エカ 言ウ(7)	1.学習のめあてが分かり、書こうという意欲を持つ。 2.取材をする。 3.教材文を読み、長く詳しく書くための書き表し方を知る。 4.いちばん書きたいことを選び、どんな順序で書いていくか、カードに書き、書き出し文を考える。 5.順序カードをもとにして、作文を書く。 6.友達に作文を読み、順序よく、よく分かるように書いているかを共同で批評する。 7.自分の作文を読み返し、様子がよく分かる文に書き直す。 8.自分の作文を評価し、学習のまとめをする。	○形容詞や副詞、修飾語や接続助詞などを使うと一文が長くなることを理解させる。 ○題材の選択 ○順序をたどって ○事柄を考えて ○推敲 ○片仮名	木、早い 大すき、 入る、林 森、右、左	

(▲)は作文の時間

(8)

月	単元・教材	コース 文種	時数	○ 目標 ● 指導事項	要領と 関連	主 な 学 習 活 動	言語に関わる指導	新出漢字	備 考
3	うさぎのおやこ	A	6 ▲	○ 自分たちでお話を作り、楽しいお話の世界にひたることができるようにする。 ○ 様子を表す言葉に注意して文の中で使うことができるようにする。	表イ ウ オ	1. 「うさぎのおやこ」を読んで、お話の作り方を知り、発表しあう。 2. お話作りをする。 3. 楽しいお話を場面の変り変わりに気をつけて書く。 4. お話を読み返し、間違いを直す。 5. 書いたお話を発表しあい、おもしろいところを見つけて感想を発表する。	○ じっくりかきかえる ○ とまどいにかえら ○ にげこんたら ○ だきしめる	出る、小川 小とり、空中 本、石、金も ち	総合単元 (理解と表現の関連を 図る)
	ありがとう六 年生のお兄さん お姉さん	C お礼状	1 ▲	○ 給食当番や委員会活動などで、お世話になった六年生にお礼の手紙を書くことができるようにする。	表オ 言カ(7)	1. 六年生にお世話になったことを話し合う。 2. 各自お礼の手紙を書く。 3. 手紙文集に表紙をつける。			手紙文集にして、六年生に送る。
	わたしの文集	C	2 ▲	○ 一年間の作文学習をふり返り、成長を喜び合うことができる。	表カ	1. 一年間の作文学習をふり返って、どのよりに変わったか作文に書く。 2. これまでに書いた作文を整理し個人文集にまとめる。		貝、玉、草 竹	目次の用紙

(9) 100時間 ▲は86時間

日記指導と短作文指導の年間計画

月	日記指導	短 作		文 指 導
	ね ら い	題	ね ら い	留 意 点
5	<ul style="list-style-type: none"> ○ ひらがなのけいこ ○ 言葉あつめ・しりとり (二字語、三字語) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ わたしのなまえ ○ たねまき 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分を紹介する文を書く ○ 「あさがお」のたねをまいたことを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の名前を丁寧に書かせる。 ○ 三行以内の文に書かせる。
6	<ul style="list-style-type: none"> ○ 拗音・促音等の表記 ○ 濁音・半濁音の言葉 ○ あさがおの観察 ○ あのね作文 	<ul style="list-style-type: none"> ○ あめのひ ○ すいえいきょうしつ 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 主述の照応 ○ 楽しかったことを思いだして書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ □は動物の名前()は様子や思ったことなどを書かせる。動物の絵も描かせる。例 かたつむり ○ 水泳教室のことを絵に描き、絵をもとにして文を書かせる。
7	<ul style="list-style-type: none"> ○ 助詞を正しく使って ○ あのね作文 (二～三行文で) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ あさがお ○ たなばた 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 観察したことを書く。 ○ 自分が一番こうしてほしいと思う願いを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 花の色や数などを書かせる。()は思ったこと ○ 短冊に「・・・したい」「・・・ほしい」など簡単に書かせる。
9	<ul style="list-style-type: none"> ○ あのね作文 ○ 音や様子を表す言葉 ○ 語彙を広げる ○ 「」を使って 	<ul style="list-style-type: none"> ○ なつのおもいで ○ おつきさま 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 一番書きたいことを選んで書く。 ○ 思ったことを素直に書く 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 順序をたどって簡単な文章に書かせる。作文をもとに大きな声で発表させる。 ○ 不思議に思ったことを月のうさぎに話しかけるように書かせる。
10	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「」を使って ○ 漢字やカタカナを使って ○ まるで・・・のよう 	<ul style="list-style-type: none"> ○ きんぎょ ○ ごあんない 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 対象物をよく見て書く。 ○ 簡単な招待状を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 様子を表す言葉を上手に書いて書かせる。 (・・・のよう 擬態語 擬音語 など) ○ 相手を決めて学芸会にきてほしいという気持ちを書かせる。
11	<ul style="list-style-type: none"> ○ 拗音・促音の言葉 ○ 様子を表す言葉 ○ 心に残ったこと 	<ul style="list-style-type: none"> ○ おちばひろい ○ くだもの 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 拗音・促音を正しく使う ○ 五感を働かせて書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ できるだけ拗音・促音を含む言葉を選んで書かせる。 ○ 見たこと、におい、味などをありのままに書かせる。
12	<ul style="list-style-type: none"> ○ 楽しかったこと ○ すてきな発見 	<ul style="list-style-type: none"> ○ サンタはいまごろ 	<ul style="list-style-type: none"> ○ カタカナを文中で使う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ カタカナで書く言葉に注意して書かせる。
1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 心に残った言葉 ○ 「」を使って ○ 気持ちが表れるように 	<ul style="list-style-type: none"> ○ どうぶつかるた ○ すてきなはっけん 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 様子を生き生きと書く。 ○ 五感を働かせて書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今までに見た動物の中から好きな動物の一つ選んで様子がよく分かるように書く。 ○ すてきな発見を言葉で表すことができる。 ・いい耳で聞いたら ・いい目でみたら
2	<ul style="list-style-type: none"> ○ うれしかったこと ○ すてきな発見 	<ul style="list-style-type: none"> ○ じょうずになったよ 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 成長の喜びがわかるように書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ がんばってできるようになったことを思いだして書かせる。
3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 心に残ったこと 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ありがとう 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 感謝の気持ちを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 感謝の気持ちが表れるように簡単な手紙文が書けるようにする。

2 確かな力をつける指導

(1) 作文単元（Aコース）の展開

作文単元を展開するにあたっては次のように行う。

- ① 目標をおさえ動機づけをきちんとする。
- ② 作文の教材研究を綿密に行い指導内容を把握する。
- ③ 作文の指導過程は次のように行う。
目標 → 書きたいこと(主題) → 取材 → 構成 → 記述 → 批正 → まとめ
- ④ 単元展開計画に従って作文のワークシートを作成する。
- ⑤ 記述中は児童の個人差が最も大きいので個別指導を徹底する。
- ⑥ 評価はねらいにそって行い、次の書く意欲につながるようにする。

何のために作文を書かせるのかねらいをおさえ、綿密な教材研究によって指導内容を的確に把握しワークシートを一冊のノートとして作成する。そうすると児童にも学習の過程が分かり書く意欲も高まる。

また、一年生の作文指導は言語事項や主述の照応など基礎的な学習が前提としてあり、その上に取材、記述、批正の仕方など初歩的な学習をする段階なのできめ細かな指導をする。

(2) 練習学習と関連指導（Bコース）

① 「理解単元」との関連指導

「理解」から「表現」へつながるように効果的に指導するためには、文学教材の読みを深める学習の過程で表現技法を学び、作文学習に生かすようにさせる。また、説明文の学習で理解した文章表現の仕方を生かして簡単な説明文が書けるようにさせる。

② 視写・聴写の指導

書くことをおっくうがらない子にするためには、視写・聴写を多く取り入れて書き慣れさせる必要がある。特に低学年においては新指導要領の指導事項として「表現」のキ〜ケに示されていて視写・聴写のもつ意義は大きい。その効果について「石田佐久馬著『視写・聴写書き込み』」から列举すると

- ア 文字の読み方、書き方、字形、使い方などを覚える。
- イ 語句の意味や使い方を理解する。
- ウ 文字による言葉の書き表し方を理解する。
- エ 文、段落、文章などの組み立てにも関心を持ち、句読点、諸符号、送り仮名、仮名遣いなど表記法を理解する。
- オ 意識を集中して視写することによって、文章の内容をよりよく理解する。
- カ 聴写は話を注意深く聞く態度が養える。

このように視写・聴写の力をつけることは書く力を高めることが分かる。

③ 日記指導

日記を書かせる際「その日のできごとを書きなさい。」と言っただけでは「きょうは○○しました。たのしかったです。」のワンパターンになってしまう。そこで、毎日または週ご

とにねらいを決めて書かせることが必要である。ねらいは児童の実態やその日（週）にどんな学習をしたかによって決め、その観点から評価（コメント）を入れるのである。そのため処理も簡単になる。日記のその日のねらいは言語事項の定着をめざすものであったり、表現技法であったり、したことの内容をきちんと記録させたりなどいろいろ考えられる。

④ 練習学習の指導

日頃の日記指導は個別指導であるが、練習学習は学級の児童の実態に即して一斉に行う指導であり、主に言語事項の定着を図るものである。また、次の作文単元に生かせるように様子を表す言葉を集めさせたり短文作りをさせたりして語彙を増やす指導である。

(3) 自由作文と短作文（Cコース）

自由作文は地域や学校の行事などのできごとを特設して書かせる作文であり、生活科との関連学習作文である。単元作文や練習作文などで習得した表現力を生かして自由にのびのびと書かせるので児童の個性や創造的な表現能力を伸ばすのに役立つ。

また、短作文は短い文章の作文なので簡単に書かせることができるし、児童も気軽に書くことができる。しかも、いろいろと用紙を工夫することができるので児童は喜んで書くようになる。また、短時間に書くことができるので書く機会を多く与え書き慣れさせることができる。このように確かな書く力をつけるためには教育課程全体の中で常に書かせるようしむけることが大切である。「継続は力なり」の諺通り、ありとあらゆる機会をとらえて教師が目当てを持ち、きめ細かな指導をすることにより、児童は物事を意識的に見る力が養われ文章による表現力も高められる。

IV 指導の実際

1 単元名 よく おもいだして かこう 〈作文〉

2 単元設定の理由

(1) 単元について

児童はこれまで、6月の作文単元（口頭作文）「せんせい あのね」から始まって、7月には「えとさくぶん」の単元で「いつ」「どこで」「だれが」「だれと」「何をした」の要素をおさえて、主述の整った文が書けるよう学習してきた。また、11月には「えんそく」という共通体験を題材にして共同作文を書くことにより、ある程度まとまった文が書けるようになってきた。2学期も後半になると学校生活にも落ち着きを見せ、平仮名に加えて漢字やカタカナの学習も進み、文章を書く事にも興味を持つようになってきた。

本単元では、特に主述の照応と5Wの要素をおさえながら、遊んだ経験をしっかり思いださせ、その中から自分が一番書きたいことを選び、読み手がよく分かるようにしたことの順序をたどって書けるよう指導したい。そして、今後の作文単元で順序をたどって長い作文を書くことへと発展させたい。

なお、本単元は生活科の関連指導として扱うことにした。11月初旬に児童は生活科単元「あきとあそぼう」で落ち葉を拾ったり、集めてきた木の葉や木の実を使って、いろいろなおもちゃ

を作ったりして楽しく遊ぶ体験をした。おもちゃができあがったときの喜びや感動をそのまま書く意欲につながることにより興味を持ちながら作文を書くことができるものと思われる。

(2) 児童について

10月初旬の実態調査の結果、主述の整った文が書ける子は全体の70%、助詞が正しく使える子は66%、拗音・促音が正しく使える子は53%とかなり悪い。また、一分間に視写する文字数が20字以上書ける子は3人しかいない。

そこで、練習学習を取り入れ、書く抵抗を取り除きながら授業を進めることにした。

3 単元の目標

- (1) 楽しかったおもちゃ作りをよく思いだし、したことの順序をたどって様子がよく分かるように書くことができるようにする。
- (2) 主述の照応に気を付けると同時に、文の中で漢字や句読点、「」かぎを正しく使うことができるようにする。
- (3) 書いた事柄を読み返し、漢字や句読点、「」の誤りを正すことが出来るようにする。

4 指導内容




- (1) 生活の中から楽しかったことを思い出させる。
- (2) その中から一番書きたいことを選ぶ。
- (2) 選んだ題材について経験したことを思い出させる。
- (4) 思い浮かべた事柄を順序よく、読み手によく分かるように主述の照応や文と文とのつながりに気を付けて書かせる。
- (5) 書いた文章を読み返して、漢字、句読点、「」の使い方の誤りを直させる。

5 単元構成

教材名 「かみひこうき」 (昭和62年度用 光村 1年下)

6 教材について

(1) 目標と教材との関係

本単元では、遊んだ経験をしっかり思いださせ、その中から話題を見つけまとまりのある文章を書かせることを主なねらいとしているため、書くことに興味を持たせ書く意欲を育てる指導をしたい。教材文「かみひこうき」の作文は、したことから、自分が一番書きたいことを選び、した通りに順序を整えて書かれている。その教材文を「はじめ」「なか」「おわり」の三つの部分に分ける。下書き用の紙もそれに合わせて三色用意しまとまりのある書き方を分からせる。さらに、したこと  見たこと  聞いたこと  の文を見つけ出し様子が詳しく書かれている文をしっかり見つめる目を育てたい。

(2) 教材化



生活科単元「あきと あそぼう」で落ち葉拾いをし、集めた落ち葉や木の実を使って「秋のおもちゃ作り」の経験をしている。その経験を生かして書く活動へと関連指導をすることにした。はじめ「落ち葉拾い」、なか「おもちゃ作り」、おわり「遊んだこと」を教材文と対比させて作文メモを書かせることにより、その時の様子を思いおこさせ読み手によく分かるように書かせたい。

教材 光村二年(下)	教材研究	指導内容
<p>とばした。きのお、ぼくは、だれとだれと</p> <p>かみひこうき</p> <p>と かみひこうきを つくって</p> <p>とばしました。</p> <p>ぼくは、おかあさんに、こう</p> <p>こくのかみをもらいました。</p> <p>大きい かみだったので、はん</p> <p>ぶんに きりました。それを</p> <p>さとうくと わけました。</p> <p>ぼくは、先がほそくなつ</p> <p>て いる ひこうきを つくり</p> <p>ました。さとうくんが、</p> <p>「ロケットみたいだね。」</p> <p>と いいました。</p> <p>さとうくんは、つばきの</p> <p>ひろい ひこうきを つくりま</p> <p>した。</p> <p>それから、ぼくたちは、</p> <p>こうえんに いって、ひこう</p> <p>きを とばしました。</p> <p>ぼくの ひこうきは、まっ</p> <p>すぐに とんで いきました。</p> <p>さとうくんの ひこうきは、</p> <p>ゆっくり 左に まわり</p> <p>ながら とびました。</p>	<p>作文マーク</p> <ul style="list-style-type: none"> ① したと ② だれと ③ ぼくと ④ だれと ⑤ だれと <p>書き出し文</p> <p>(「いつ、だれが、だれと どうした</p> <p>はじめ</p> <p>はじめに、どんな ことをしたかな</p> <p>なか</p> <p>どんな ひこうき をついたかな</p> <p>おわり</p> <p>それから、 どうしたかな</p> <p>どんな様子で とびか、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まっすぐに ・ゆっくり <p>左にまわりながら</p>	<p>◎ 出来事の順に従って書くことより 作文の基本を指導する。</p> <p>◎ 構成 「はじめ」「なか」「おわり」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 事迹の照応と五のW いつ どこで だれが だれと なにをした ○ 基本文型 ぼくは、—— ました。 ○ 助詞「...ので」を使うと一文が 長くなることをおさえる。 ○ 既習漢字は使えるようにさせる。 ○ 会話文「」の使い方に慣れさせる。 練習学習 ○ 「それから」など順序を表す言葉も おさえる。 ○ 思ふことをそのまま書くことにより 様子がよくわかる文になる。

7 指導計画 (11時間)

- (1) 第一次 (1時間) ……学習の目当てをつかみ、書こうとする意欲を持つ。
- (2) 第二次 (3時間) ……教材文を読んで何をどう書くかに付いて調べ、書く方法を考える。
- (3) 第三次 (3時間) ……「おもちゃづくり」のことをよく思いだして、様子がよく分かるように順序を考えて作文を書く。
- (4) 第四次 (2時間) ……書いた作文を読み返して、読み手によく分かる文章に直す。
- (5) 第五次 (2時間) ……作文を発表し合い、学習のまとめをする。

8 指導の展開

時	目 標	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点						
第一 次 一 時 間	学習の目当てをつかみ、書こうとする意欲を持つ。	<ol style="list-style-type: none"> 1 今までの学習を振り返り、書こうとする意欲を持つ。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 作文を書く時にどんなことに気を付けたか話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「、」や「。」にきをつけて ・ ちいさくかく字にきをつけて ○ 「おもちゃづくり」のことを家の人に知らせる作文を書く意欲を持つ。 2 単元の前書きから目当てをつかむ <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td style="padding: 2px;">め</td> <td>よくおもいだして じゅん</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">あ</td> <td>じょよくかく。</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">て</td> <td>かいたら よみかえす。</td> </tr> </table> 3 新出漢字や言葉のけいこをする。 	め	よくおもいだして じゅん	あ	じょよくかく。	て	かいたら よみかえす。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 作文を学習した中で、具体的に話し合わせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「あのねさくぶん」を書いたとき ・ 「えんそく」の作文を書いたとき ○ 決めた目当ては模造紙に書いて掲示する。 ○ ワークシートに書かせる。
め	よくおもいだして じゅん								
あ	じょよくかく。								
て	かいたら よみかえす。								
第二 次 三 時 間	教材文を読んで、順序をたどってよく分かるように書くにはどうしたらよいか分かる。	<ol style="list-style-type: none"> 1 教材文「かみひこうき」を読んで順序をたどってよく分かるように書くにはどうしたらよいか考える。 (1) 「かみひこうき」で書きたかったことは何か。 (2) どんな順序で書いてあるか調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ○ はじめにどんなことをしたか ○ どんなひこうきを作ったか ○ それからどんなことをしたか (3) 「したこと」に  のマーク「見たこと」に  のマークをつける。 (4) 様子が詳しく書かれているところを見つけて発表し、視写する。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 先が細くなっているひこうき ○ つばさのひろいひこうき ○ まっすぐに とんでいきました。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 読む前に確認させる。 ○ はじめ、なか、おわりの区切りを色分けし、さし絵とふきだしを利用して理解させる。 ○ したことの順序をつかませる ○ 「見たこと」「聞いたこと」「思ったこと」などにも気付かせる。 ○ どんなひこうきを作ったかを書いて様子を詳しくしていることに気づかせる。 ○ どのようにとんだかを視写し様子をくわしく書いてあることに気づかせる。 						

		<ul style="list-style-type: none"> ○ ゆっくり 左にまわりながらとびました。 2 短文作りの練習をする。 3 「」の使い方の練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 身近なものや、人物の様子を詳しく書く。 ○ 会話文の表現効果を知らせる
第 三 次	「おもちゃづくり」のことをよく思い出して、様子がよく分かるように順序を考えて書くことができる。	<ol style="list-style-type: none"> 1 おもちゃを作って遊んだことを思い出して、した順序に絵を書く。(組み立て) 2 おもちゃを作って遊んだことを思い出して発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ○ どんなものを作ったか。 ○ どんなことをして遊んだか。 3 順序をたどって書く。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 書き出し文を書く。 ○ 書き出し文に続けて、したことを順序よく書く。先生や友達の言ったことや、どんな様子だったか見たことも書く。 4 書いた作文を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「かみひこうき」と対比して書かせる。 ○ はじめ、なか、おわりの3つのまとまりで書くようにさせる ○ 前事に書いた絵と写真を見せながら発表させる。 ○ 発表したことを板書し、書く手がかりにさせる。 ○ 作文用紙の1行目に文題、2行目に氏名、3行目から1ますあけて書き出しの文を書かせる 書き出し文は、「紙ひこうき」で試写したところを掲示して参考にさせ、様子がよく分かるように書かせる。 ○ 書き上げていない子も鉛筆を置かせ、友達の発表をしっかりと聞かせる。
三 時 間			
第 4 次	書いた作文を読み返し読み手によく分かるように直すことができる。	<ol style="list-style-type: none"> 1 前時に書いた作文の中から友達の作文をみんなで直す。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 書き出し文に「いつ」「どこで」「だれが」「だれと」「なにをした」の要素が入っているか。 ○ 会話文が使われているか。 ○ 見たことや聞いたことが書けているか。 ○ 思ったことが書けているか。 ○ したことの順序がよく分かるように書けているか。 2 友達の作文を参考にして、自分の作文を読み返して直す。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分が書き落とした事柄は何か。 ○ 書き加える事柄は何か。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 作文としてうまく書けているが、漢字や助詞の使い方、促音句読点などの表記の誤りのあるものを事前に選んで、TPシートに写して用意し、0HPに映す。 ○ 作文の題材が共通経験なので友達の表現と比べ合うことが容易であると思われるが、自分で直すことができない子は、個別指導をする。
二 時 間	(本時)		
	正しく清書することができる。	3 書き直した作文をていねいに清書する。	○ 清書用原稿用紙
第 5 次	書いた作文をみんなの前で発表することができる。	<ol style="list-style-type: none"> 1 順番に全員が発表する。 2 友達の作文を聞いて、よく書けているところに——線を引いたり、作文のマークをつけたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大きな声で、はっきりと読ませる。(読む練習をさせておく。) ○ 文集を見ながら静かに聞かせ終わったら——線を引かせたり、作文のマークをつけたりさせる。
二 時 間			

9 本時の展開

目標	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	備 考
よ く 書 分 い か た る 作 文 文 章 を に 読 直 み す 返 こ し と て が 読 で み き 手 る に	1 本時の学習の目当てを確認する。		
	かいた作文をよみかえしてよむ人がよくわかるように たくかくかきなおす	○ 目当ては模造紙に書いて掲示する。	
	2 前時に書いた友だちの作文をみんなで共同批評する。 ○ 拗音・促音などの間違いはないか。 ○ 書き出し文に「いつ」「どこで」「だれが」「なにをした」の要素が入っているか。 ○ 見たことや聞いたことが書けているか。 ○ 会話文が使われているか。 ○ したことの順序がよく分かるようにかけているか。(はじめ、なか、おわり)	○ 表記の間違いは児童の発言をもとに直す。 ○ 書き出し文の5Wの要素や主述の照応などは教師が視点を与えて気づかせる。 ○ 上手に書けている点は◎を付ける。	0HP 友達の作文 ○作文としてはうまく書けているが漢字や助詞の使い方が拗音・促音などの誤り
	3 作文の直し方を参考にして、自分の作文を読み返して正しく書き直す。 4 作文を読んで発表する。	○ 個別指導を徹底する。 ○ 2・3人の児童に発表させる。	○あるものを事前に選んでおく。

○ 評価・・・自分の作文を読み返して正しく書き直すことができたか。

10 実践例2

学習指導案（共同作文）

平成2年 11月5日 3・4校時 1年3組 33人

(1) 単元名 こきざみに おもいださせて 「えんそく」

(2) ねらい

- ・ 経験したことを少しずつ想起することができる。
- ・ 想起したことを文に書くことができる。

(3) 指導計画（2時間）

- ・ 遠足で楽しかったことを話し合わせる。
- ・ 経験の順序に従って少しずつ思い出させて書かせる。
- ・ 書いた文章を読み返して誤りを直させる。


(4) 展開

過程	教師の発問と児童の反応	留意点
はじめ	<p>1 昨日の遠足は楽しかったね。どんなことが一番楽しかったのかな。</p> <p>2 そのほかにも楽しいことがいっぱいあったね。その楽しかったことを作文に書いて、おうちの人にも知らせましょうね。</p> <p>3 では、はじめに何と書いたらいいでしょうか。みんなで考えてみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「きのうは えんそくでした。」 ・「子どものくにへ バスにのって いきました。」 <p>4 そうですね。では、先生が少しずつ書きますから、みんな一緒に書きましょう。でも、自分の言葉で書ける人は自分の言葉で書いてもいいですよ。</p> <p>5 子どものくにの入り口には何があったのかな。思い出してごらん。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ふん水がありました。」 ・「かんらんしゃが ありました。」 <p>6 そうでしたね。そのことを次に書いてください。もちろん、それ以外のことを書いてもいいですよ。</p> <p>7 書き終えた人は、そこでストップして読み返してください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 二・三人の児童に発言させる。 ・ 「きのうは えんそくでした。子どものくにへいきました。」とゆっくり板書し視写させる。 ・ 書き始めは一字下げで書くよう指示する。 ・ 机間に入り個別指導をする。 ・ 書き終えるのを見届けてから次へ進む。
なか	<p>8 はじめに、水族館へ行きましたね。思い出してごらん。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「たくさんのさかなが およいでいました。」 ・「大きいさかなが すいすいおよいでいました。」 <p>9 そうですね。では、一字下げで「はじめに、水ぞくかんへいきました。」と書いてください。それから、自分が見た魚の様子を書いてください。</p> <p>10 思ったことも書ける子は書いてください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ また、机間に入り停滞している児童に助言をする。 ・ ほとんどの児童が書けたのを見計らって、中断させて次の指示をする。
おわり	<p>11 まだ、書き終わらない子もいると思いますがちょっとやめてください。次は、たくさんの動物を見てください。動物の様子を思い出してごらん。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「さるがえさを たべていました。」 ・「ライオンが ほえていました。」 <p>12 そのほかにもいろいろな動物がいましたね。自分が書きたい動物を二つほど選んで書いてください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前回と同様に少し話し合わせてから書かせる。「つぎに」を使う。 ・ 書き始めは一字下げで書かせる。 ・ 机間に入り個別指導をする。
おわり	<p>13 さあ、これで最後です。動物を見た後でお弁当を食べましたね。その時のことを思い出してごらん。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ともだちと いっしょにたべて うれしかった。」 ・「おかあさんが つくってくれた おべんとうは とてもおいしかった。」 <p>14 弁当時間のことを書いたら作文の締めくくりです。遠足はどうだったか書いてください。</p> <p>15 書いた子は間違いがないか読み返して直してください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 話し合わせてから書かせる。 ・ 個別指導をする。 ・ 書いたら必ず読み返し直してから出させる。

お ち ひ い
ば ろ き
した よ

11月6日とうやまのこやか
わたしは
おちばひ
ろいをしたよ。
まつぼくりと
はまじしたよ。
てまたのしがたで
す。

ちいさなこかしますにつかわれ
ています。




(1)がつ(24)に5

きんぎよ
十がつ
うんぎよいすけ

ようくみてごらん。
らぐようす
ひれ
すすみかた
えさき
たべるとき
あけかた

きんぎよをか
おはようつぎま
す。きんぎよをあけて
るね。うんぎよをか
たね。おいしいですか
まは。きんぎよか
りまきです。

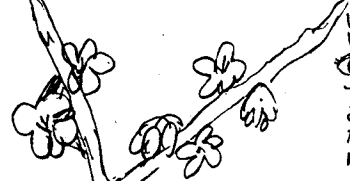
たくさんかけましたね。すいん



(1)がつ(21)に5

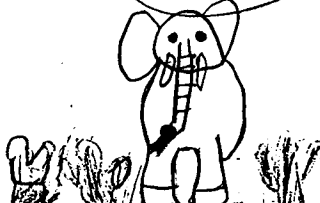
どうぶつかるた
一がつ
うんぎよいすけ

い
てみたらすてきなはなけん
さくらりの花を見たよ。びんく
のこゆいろいろたよ。びんくの
きれいな花がらが六ついて
いたよ。床にぼんとぶらさが
っていたよ。ちよとしたらめ白か
とんでいたよ。はねはみどりい
でめがしろかったよ。はねがみど
りいろだからさくらの花の
いろとてもにあっていたよ。



ぞ

ぞうははなが
ながいぞう。
ぞうははなを
えさたべます。



あきのおもちやづくり
 Y男
 ぼくは、ふてんまじんぐうへ
 いきました。おちばがあかやき
 いろに、な、ていしました。おも
 しろい木のみもありました。大
 きなは、ばもありました。おと
 もだちととりかえ、こましまし
 た。
 あつめてきたおちばで、ようかい
 くやアウカスやかんむりをつく
 たりしました。さいりうは、
 大きなは、ばやちやいろいは、
 ばやみどりのは、ばです。
 はじめに、ビニールぶくろに
 おちばをくつつけました。かた
 がみにかみこ、ぶやどんぐりや
 ちやいろいは、ばをくつつけま
 した。まつばくりをくつつける
 のかむずかしいでした。つくり
 おちると、
 しやしんをとりました。おう
 ちにかえるとおちあさんが
 つきれいだね。

あきのおもちやづくり
 A子
 わたしは、すこうのじかんに
 せんせいからきのみやおちばを
 もらいました。そのは、ばはお
 んなの子といぬのえをくりま
 した。は、ばやきのみのいろが
 きれいでした。それは、うすき
 いろやま、さいろのは、ばがた
 くさんあったからです。きのみ
 は、まっかないろで、とてもお
 いしそうだったです。
 はじめにちいさくてまるうぼ
 いは、ばをさかしてかおをつく
 りました。こんどは、ちいさな



といいました。おうちにかえ
 てきたおとうさんも
 うすだね。
 とい、ました。

木のみで、目を二つくつつけま
 した。目をつけるとかおのがん
 じがすこしでてきました。
 つぎに、口をかみをけまし
 た。口をつける時、かわいくな
 りました。
 さいごに、さいろのは、ばを
 ようやくのがたちに、さんかく
 にぎつてすがあをあげました。
 足と手は、ほそくておじかいぼ
 うをつかいました。
 てさあかつたえをみると、う
 まくかけたておもいました。
 まごさんもおもいました。
 した。まごさんのえは、とりと
 かめがあるいているえでした。
 わたしは、まごさんのえをみて
 じやうずたとおもいました。
 それからまごさんとしやしん
 をつきました。まごさんは、
 はこにこしていました。
 おうちにかえつておちあさん
 に、えをみせると、
 一じやうずたね。
 と、ほめてくれました。とても
 うれしかったです。

V まとめと今後の課題

一年生の作文年間指導計画を立てることにより、どういう技能を、いつ、どのように指導するのかが明確になった。それに基づいた授業実践をいくつか試みて分かったことは、教師が何のために書かせるのか目当てを持ち、手だてを十分にしたきめ細かな指導を行うと、児童らは確かな書く力がつくことが分かった。また、書く意欲を持たせるためには、書きたくなるような場の設定や用紙の工夫も大切である。さらに、作文単元を終えるごとに実態調査を行い、不十分な指導事項については練習学習等をして定着を図り、次の指導へとつなぐことも大切であることが分かった。

このように、確かな書く力を一年生につけるためには、年間指導計画に基づいて教師が見通しを持ち、適時・適切に作文指導を行うことが肝要である。

今後の課題としては、①理解単元で学習した「読みの力」を作文につなぐ関連指導をどのようにすればよいか、②平成四年度の新指導要領の完全実施に伴う作文年間指導計画の再検討である。

最後に研修の機会を与えてくださいました宜野湾市立教育研究所とご指導頂きました宜野湾市教育委員会の先生方に厚く御礼申し上げます。

〈主な参考文献・資料〉

篠崎久 編著	「文章表現力を高める作文指導」	第一法規	1981年
倉沢栄吉編著	「作文の指導過程1」	新光閣書店	1988年
倉沢栄吉・滑川道夫編	「作文指導模範事例集」	第一法規	1981年
北村季夫編著	「表現力を育てる練習学習」	東京書籍	1980年
石田佐久馬編	「視写・聴写・書き込み」	東洋館	1990年
瀬川栄志著	「表現力を高める作文の基礎的 基本的事項の指導」	明治図書	1979年
鹿児島市立田上小学校編	「わたしたちの教育研究8 各教科の年間指導計画」		1989年